

# 薄磯地区防災緑地ワークショップ

## かわらばん 第2号

平成 25 年6月 15 日(土)に、いわきニュータウンセンタービルにて「第2回 薄磯地区防災緑地ワークショップ」が開催されました。5月26日(水)に行われた第1回の委員会では、「防災緑地を知ろう」と題して、防災緑地及び現地状況について共通認識を深めるため、参加者との自由な意見交換を行いました。

今回のテーマは「防災緑地のイメージを考えよう」でした。東北芸術工科大学大学院の廣瀬俊准教授より「後世への津波伝承を考える」と題し、講話していただきました。その後、5つのグループに分かれて、2つの緑地検討案の比較を行いました。また、豊間中学校など、津波被災の伝承方法についても意見交換を行いました。当日は28名の地域の方に参加していただき、防災緑地についての思いを語り合い、充実した意見交換を行なうことができました。かわらばんにて、その様子をお伝えします。

### 当日の流れ

#### ①本日の説明



いわき建設事務所および薄磯区の区長より開会のあいさつがあり、その後、ファシリテーターより今回のワークショップの進め方と今後のスケジュールおよび内容について説明がありました。

#### ②前回のおさらいと情報提供



前回の意見についてのおさらいを行いました。防災緑地全般から緑地内での園路や植栽、施設、6号公園との一体化の話の他、避難ルートや、高台居住等についての意見がありました。

また豊間中学校の今後についても情報提供がありました。

#### ③廣瀬先生による講話



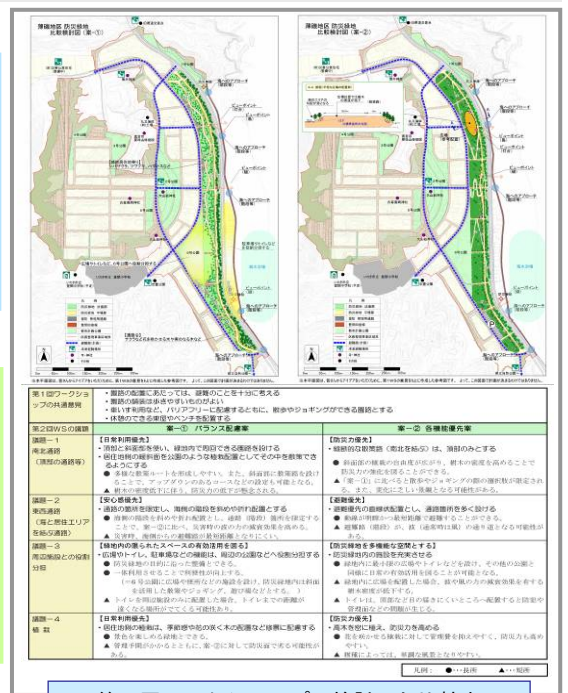
東北芸術工科大学大学院の廣瀬准教授より、「後世への伝承方法を考える」と題し、国内外の参考事例を元に、伝承の方法や見せ方などについて講話していただきました。

#### ④意見交換と全体発表



事務局が用意した比較検討案(2案)を元に、5つのグループに分かれ、各プランが有する課題について長所や短所などを考えながら、防災緑地の整備の方向性について意見交換を行いました。また廣瀬先生の講話を元に、津波被災の伝承方法についても意見の集約を行いました。

最後に、各グループの代表者が発表を行い、グループ内で話し合った内容について皆さんと情報の共有を図りました。



第2回ワークショップで検討した比較案

【津波被災の伝承方法についての意見集約表】

誰が誰に対して	何のために	何を伝えたいのか	何を伝えたいのか	そのために何が必要か	実現のために必要なことは
市民	防災意識の向上	津波被災の歴史	津波被災の歴史	防災教育の充実	防災教育の充実
市民	防災意識の向上	津波被災の歴史	津波被災の歴史	防災教育の充実	防災教育の充実
市民	防災意識の向上	津波被災の歴史	津波被災の歴史	防災教育の充実	防災教育の充実

「後世への伝承方法」の意見交換に使用した資料

# 各グループの主な意見と、意見交換・全体発表の様子



## Aグループの主な意見

【防災緑地の案】《南北通路》案②が良い。施設整備の基本は減災。頂部園路からの回遊ネットワーク路は隣接道路を活用。《東西通路》案①が良い（防犯面、日常利用、減災より）。《周辺施設との役割分担》案①が良い。6号公園は防災教育、野外活動の拠点。交流エリアと一体的活用、調和の取れた景観整備。地域の人が語り部（＝地域交流）《植栽》案①が良い。日常生活を優先。

【津波被災の伝承方法】豊間中の記憶（アーカイブ）を保存、活用し未来に伝える。語り部による伝承。慰霊碑を交流ゾーンへ配置。



## Bグループの主な意見

【防災緑地の案】《南北通路》案①が良い。木チップ等柔らかい舗装。《東西通路》どちらでもよい。砂浜へのスロープは必要。階段幅3～5m。《周辺施設との役割分担》主な施設は公園内に設置。緑地を減らしてまで広場を設置する必要なし。《植栽》案①が良い。地元で生息する樹種やハマナスなど。防犯面より樹高や密度を検討。《その他》防犯灯の必要性、ゴミ箱は不要。

【津波被災の伝承方法】中学体育館の一部を砂が入った状態で残す。防災教育のための体験型複合施設。慰霊の為の「創作じゃんがら」をつくる。中学跡地にモニュメントを配置する。



## Cグループの主な意見

【防災緑地の案】《南北通路》案①が良い。避難第一。海側は松を密に植え、シグザグ形で並べる。町側は日常生活に適したもの。《東西通路》案①と案②の折衷案。頂部から海側への直階段&スロープ。緑地は要塞ではダメ。避難路を多くする。避難所の設置と提示、収容規模等についての議論が必要。

【津波被災の伝承方法】地区全体としての慰霊碑が必要。美化活動等定期的な行事や催し。中学校の校舎の一部や残っている絵等を残す。被災時の記録写真。津波の（高さなど）記録を街なかに表示。他地区にて校舎の取り壊しを免れた例の紹介など。



## Dグループの主な意見

【防災緑地の案】《南北通路》案①が良い。斜面部を使って周回出来る園路がよい《東西通路》案①がよい。海岸の階段も案①。《周辺施設との役割分担》案①が良い。6号公園に駐車場、トイレ、水飲み場等。1号公園の駐車場にトイレ。《植栽》案①と案②の折衷案。（陸側に低密度な樹木、花卉等）

【津波被災の伝承方法】豊間中学校に昔からある石碑を探し、元の位置に戻す。被害を出さなかった先生や生徒達の行動記録を残す。



## Eグループの主な意見

【防災緑地の案】《南北通路》案①が良い。散策路周辺の植栽は防犯上低木で。東屋は展望台的利用。→津波の際、海岸にいて逃げ遅れた人への目印。《東西通路》案①が良い。通路本数7か所。《周辺施設との役割分担》トイレは人目のつく駐車場や6号公園のみ。駐車場は夏場需要を見込み空地や緑地外に増設。トラックが直接浜に降りられるスロープ。6号公園は多目的な広場、防災緑地と一体化。《植栽》案①が良い。日常生活を優先。海側は松に代わるもの。平場側斜面は、防犯上低い木。四季折々楽しめる木。

【津波被災の伝承方法】豊間中跡や新中学校にモニュメント。豊間中学校に昔からある石碑を探し出し、元の位置に戻す。東屋に震災・津波の記録を掲示する。



### 【事務局より】

皆さま、お疲れさまでした。活発な意見交換ができて、とても有意義なワークショップでした。次回もよろしくお祈りします。



### 【お問い合わせ先】

福島県いわき建設事務所

担当：兵藤、緑川

電話番号：0246-35-6075

